

令和5年 5月 31日(水) 第1回大田区地域福祉計画推進会議

地域福祉に関わる各種調査の結果について

参照データ

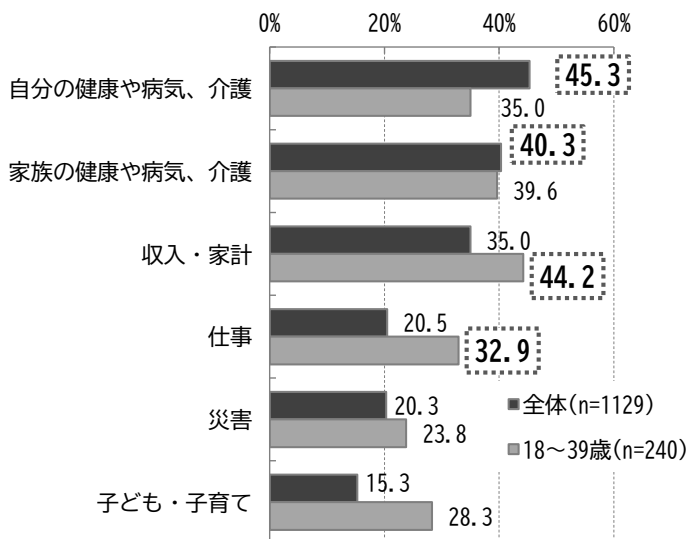
調査・報告書名	発行日等
大田区地域福祉計画実態調査 報告書	令和5年3月
大田区高齢者等実態調査 報告書	令和5年3月
大田区障がい者実態調査結果報告書	令和5年3月
大田区子どもの生活実態に関するアンケート調査 報告書	令和3年3月
大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022 実施報告書	令和5年3月
大田区政に関する世論調査	令和3年7月実施

大田区福祉管理課調整担当（計画）

様々な悩み事、複合的な課題

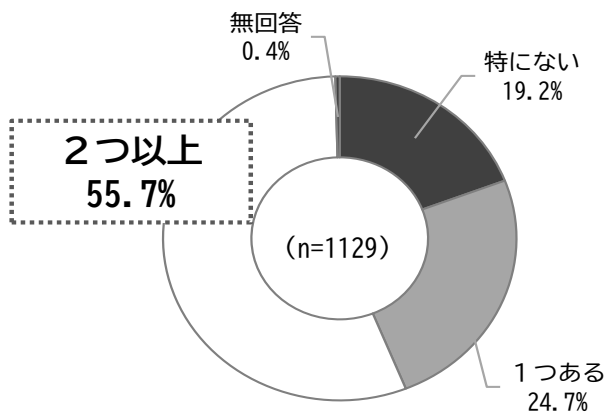
- 区民は様々な不安や困りごとを抱えていると考えられ、複数の、複合化された課題を抱えている場合も少なくないと考えられる。(1-1,1-2)
- 高齢者に関しては生きがいが見いだせないことや閉じこもり傾向、うつ傾向なども課題と考えられ、また、障がいがある方は本人・支える家族の高齢化や生活困窮等も課題になっている。(1-3～1-6)
- 子育て世帯においても育児ストレスやDV等の問題が生じる場合があり、ひとり親世帯における子育て負担も大きくなっていると考えられる。(1-7,1-8)
- 近年では特に新型コロナウイルス感染症の影響により、気分が落ち込むことが多くなるという課題があったこともうかがえる。(1-9)

整理番号 1-1 日常生活を送る上での悩みや不安・困りごと(区民対象調査)



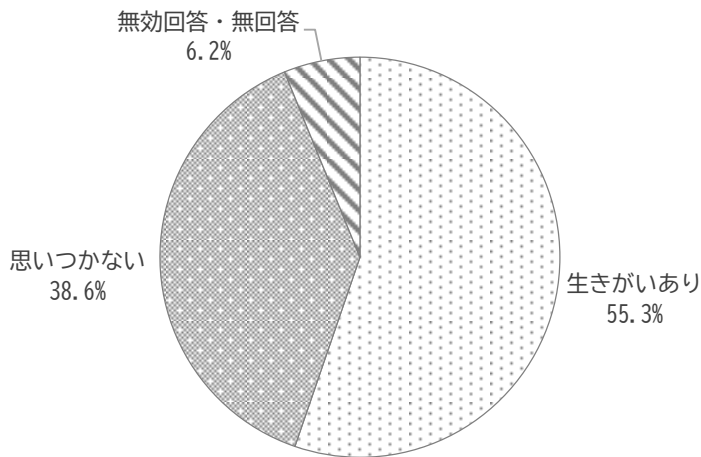
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 1-2 感じていることの悩み事の数(区民対象調査)



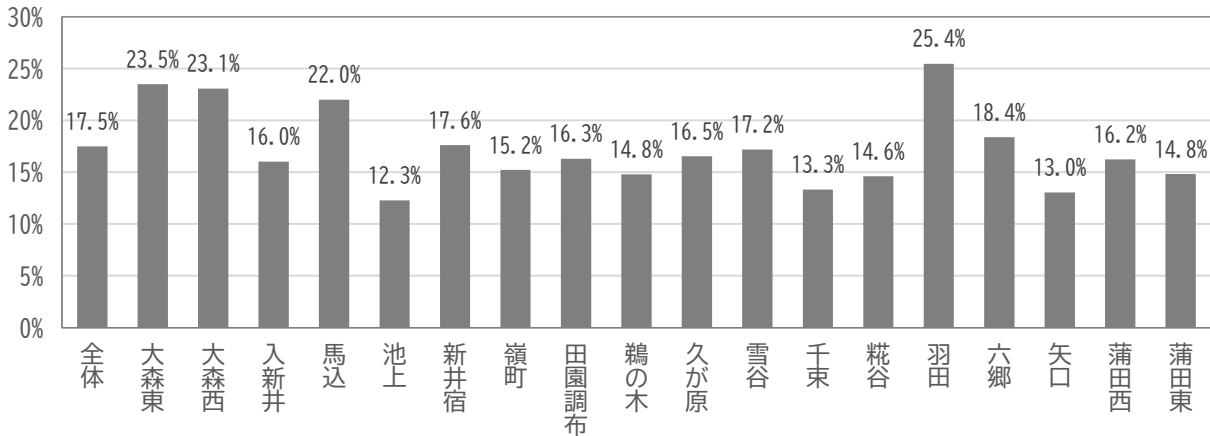
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 1-3 高齢者の生きがいの有無



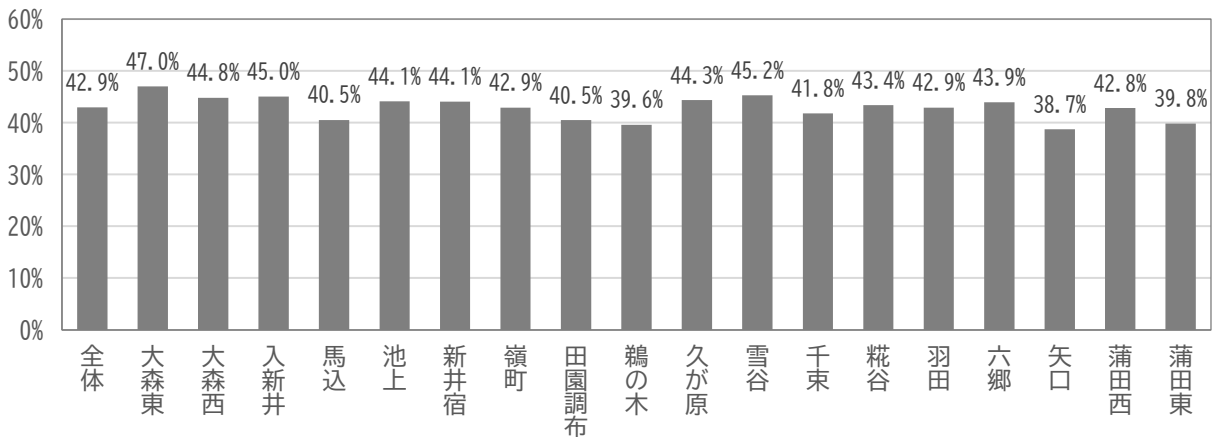
出所:大田区高齢者等実態調査 報告書

整理番号 1-4 高齢者で「閉じこもり傾向」がみられると判定された方の割合



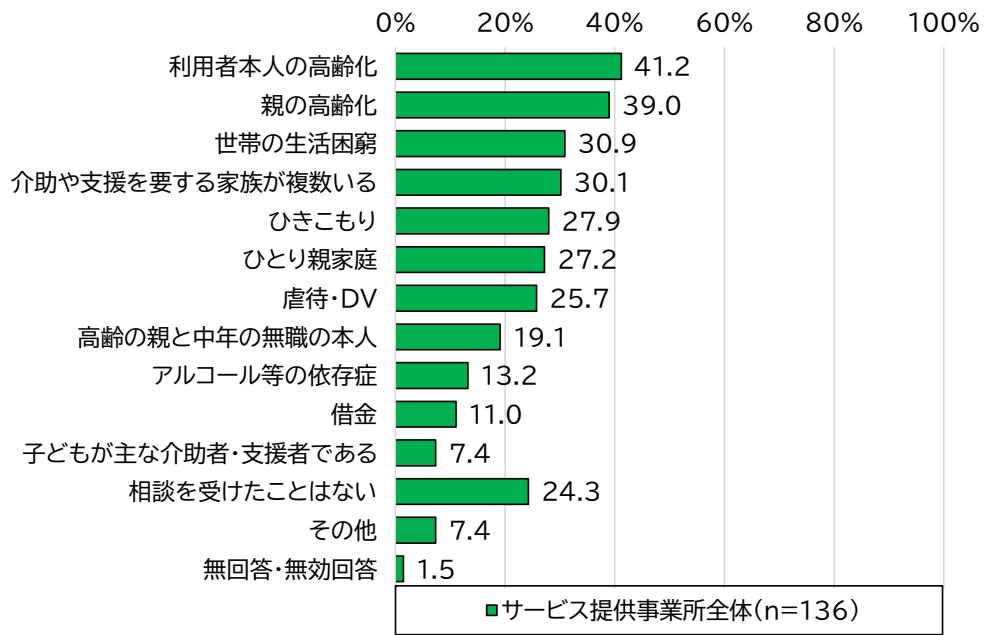
出所:大田区高齢者等実態調査 報告書

整理番号 1-5 高齢者で「うつ傾向」がみられると判定された方の割合



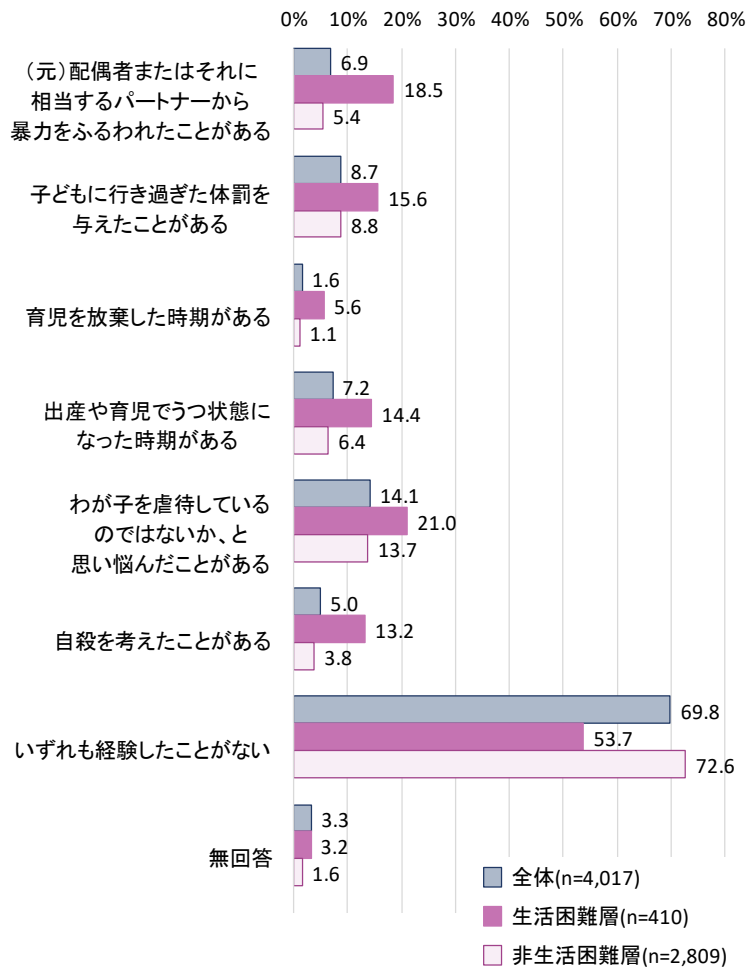
出所:大田区高齢者等実態調査 報告書

整理番号 1-6 複合的な課題に関する利用者や家族からの相談状況(サービス提供事業所)



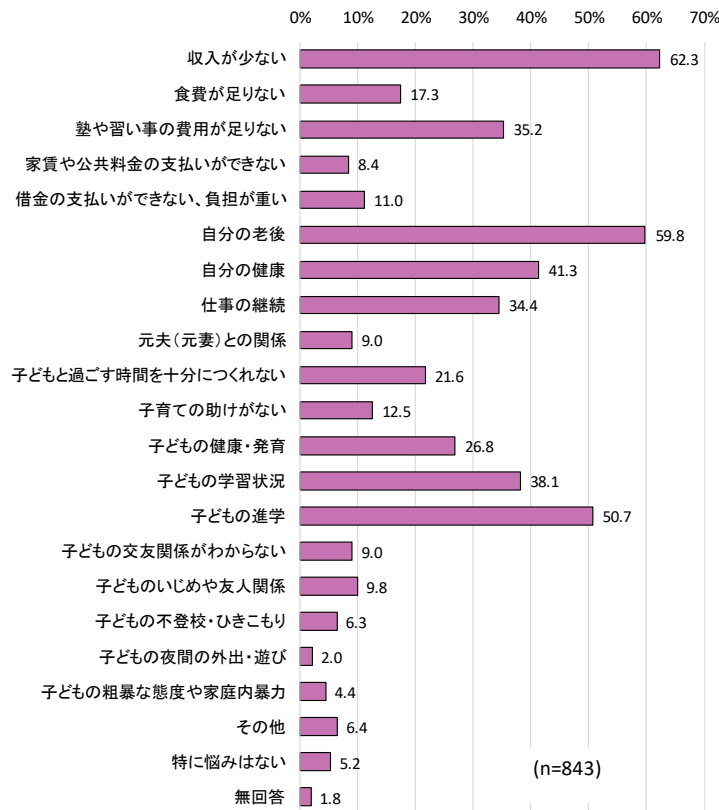
出所:大田区障がい者実態調査結果報告書

整理番号 1-7 子育てに関わってから経験したこと



出所:大田区子どもの生活実態に関するアンケート調査 報告書

整理番号 1-8 ひとり親世帯の現在の悩み事

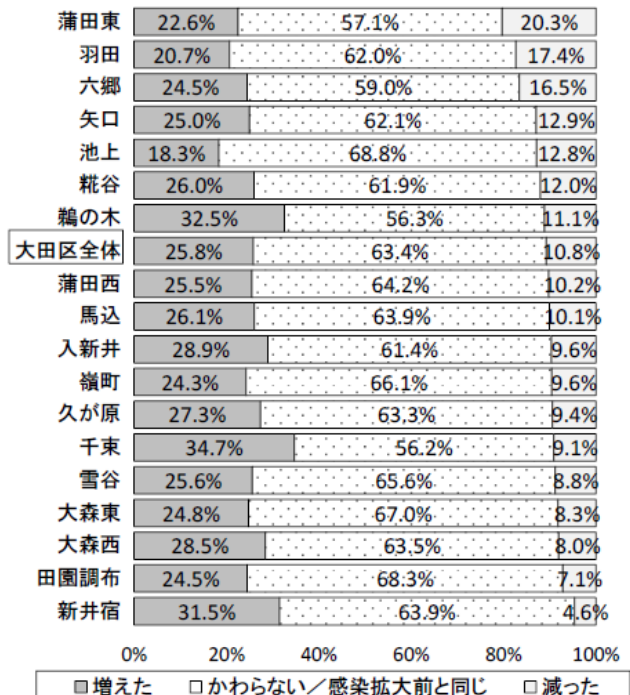
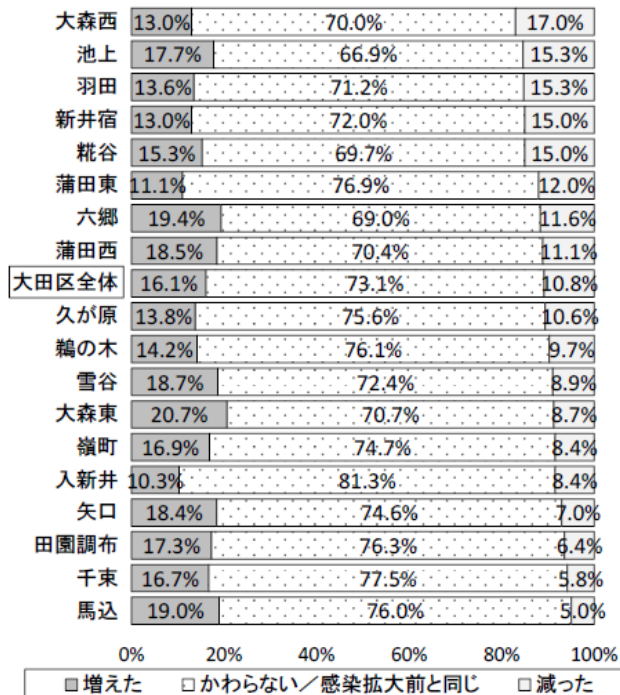


出所:大田区子どもの生活実態に関するアンケート調査 報告書(ひとり親に関する調査結果)

整理番号 1-9 新型コロナウイルスの影響による気分が落ち込む頻度の変化

(男性)

(女性)



出所:大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022 実施報告書

社会的なつながりの状況

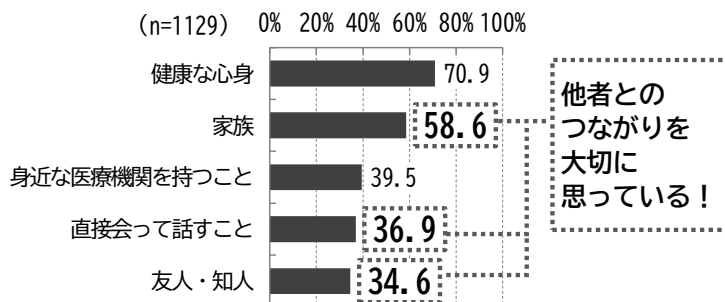
- 人々の関係性、つながりの様相は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく変化し、コミュニケーションの頻度や外出の機会等は減少した。(2-1)
- 他方で、人間関係や交流の機会を大切に思う気持ちは高まっているのではないかと考えられる。(2-2)
- 近所付き合いの程度や地域のつながりについては、必要性や希望に照らし合わせて十分にはできていないという状況にあるとも考えられる。(2-3,2-4)
- また、人々の関係性、つながりの様相に関して、「孤立」という形で課題が生じてしまっている場合もある。(2-5)
- 単身者など、人とのつながりが希薄な状況においては、例えば災害時に助けを求めることができないなどの課題が生じることもあると考えられる。(2-6)
- なお、地域を居心地のよい、暮らしやすい場所と感じることができているかということは重要と考えられ、このことは孤立の度合いとも相関していると考えられる。(2-7)

整理番号 2-1 高齢者における新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化

項目	高齢者一般調査	要介護認定者調査	第2号被保険者調査 (n=722)
外出の機会が減った	69.8%	56.4%	62.2%
感染の不安を常に感じ、精神的負担が増えた	26.5%	27.1%	21.3%
人と話す機会が減った	43.4%	42.7%	33.9%
運動不足により筋力や体力が低下した	37.5%	42.1%	23.7%
趣味活動や社会参加への参加頻度が減った	24.5%	16.2%	23.1%
不安やストレスを強く感じるようになった	17.0%	20.9%	13.7%
病院への受診がしづらくなった	12.4%	20.9%	16.5%
買い物に行く機会が減り、食事内容が偏るようになった	9.3%	15.9%	4.2%
外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった	9.4%	20.1%	3.3%
同居している家族との関係が悪化した	1.9%	3.9%	1.9%
その他	2.3%	3.4%	4.7%
特に影響はなかった	13.2%	14.0%	15.1%
無回答	1.4%	3.6%	3.0%

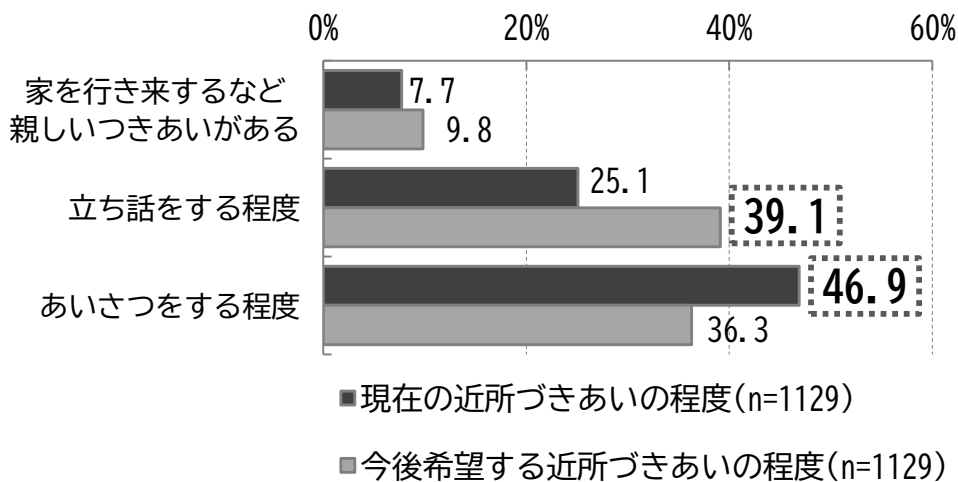
出所:大田区高齢者等実態調査 報告書

整理番号 2-2 新型コロナウイルス感染拡大前よりも大切に思うようになったこと(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 2-3 現在の近所づきあいの程度と今後希望する近所づきあいの程度(区民対象調査)

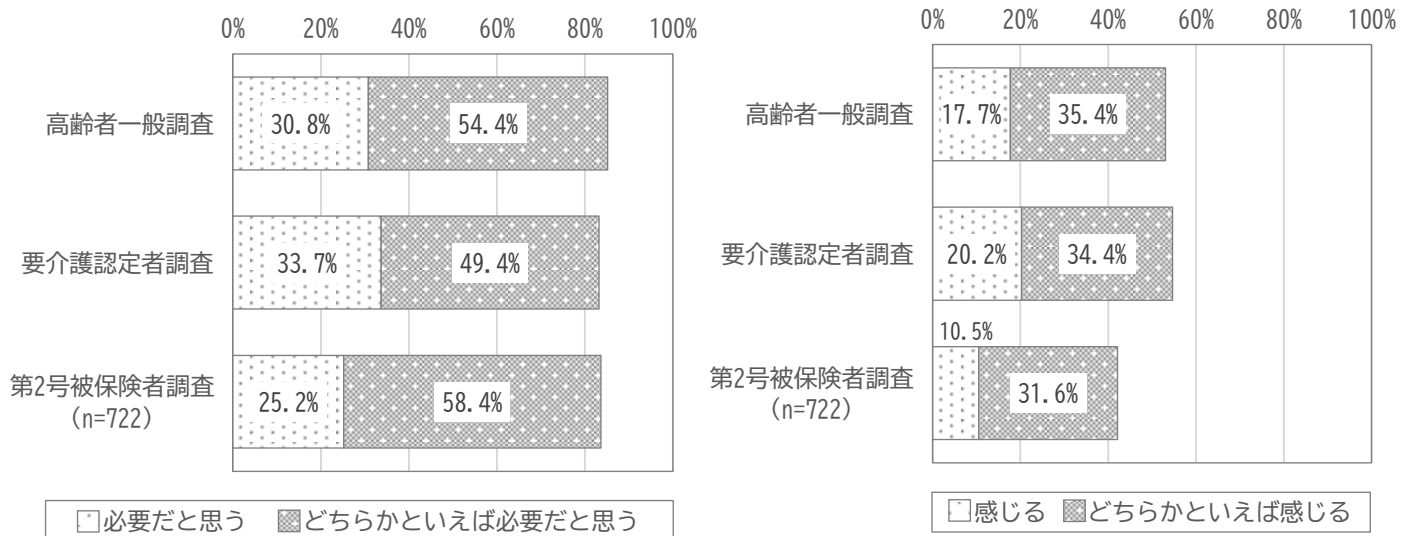


出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 2-4 高齢者における地域のつながりの必要性に対する考えと実感

(地域のつながりの必要性に対する考え)

(地域のつながりの実感)



出所:大田区高齢者等実態調査 報告書

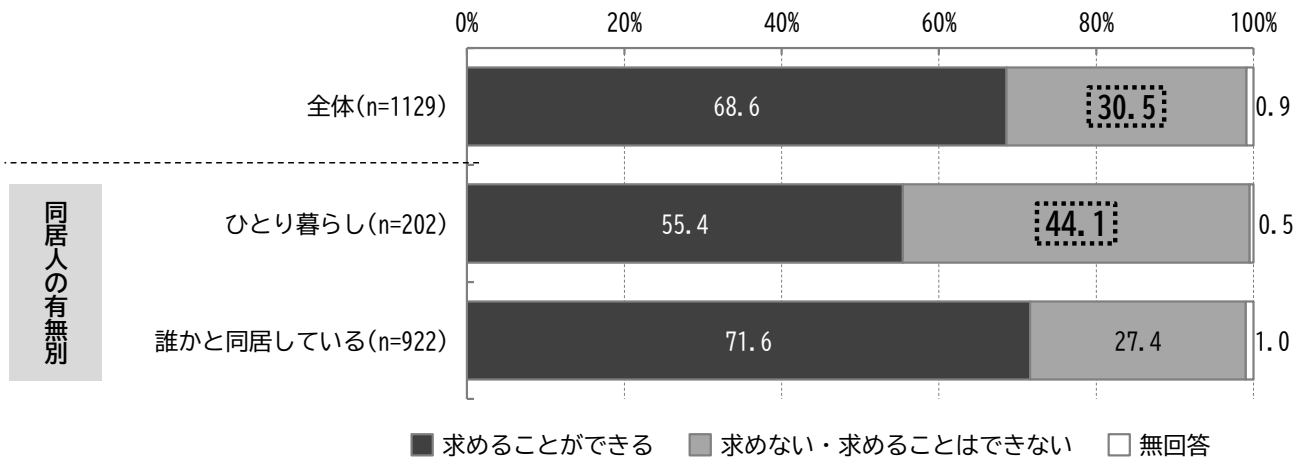
整理番号 2-5 ふだん、どの程度社会からの孤立を感じることもあるか(区民対象調査)

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	全く感じない	283	25.1
2	あまり感じない	432	38.3
3	どちらともいえない	116	10.3
4	たまに感じる	242	21.4
5	常に感じる	46	4.1
	無回答	10	0.9

n=1,129

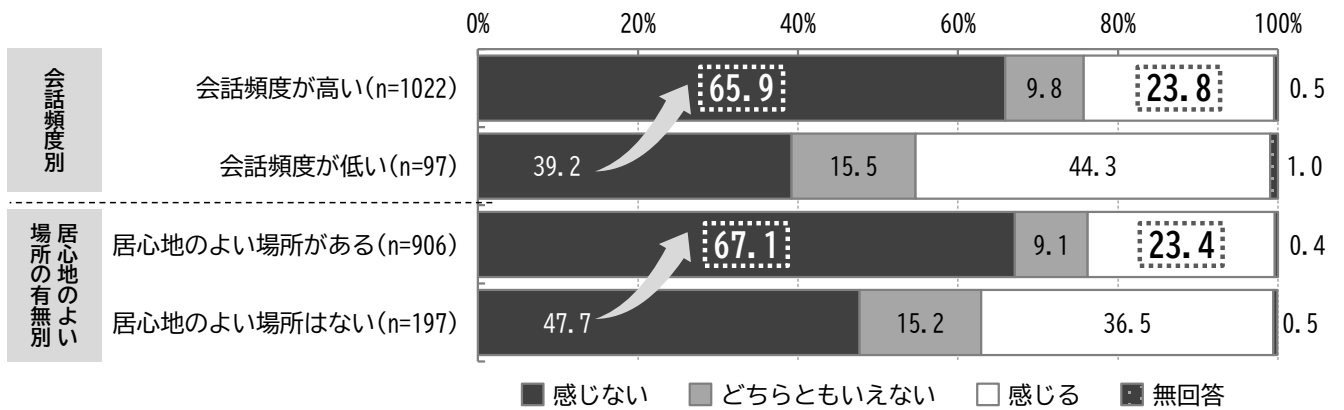
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 2-6 災害時に助けをもとめることができるかどうか(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 2-7 家族・友人等との会話頻度別及び居心地のよい場所の有無別、
 社会からの孤立を感じる人の割合(区民対象調査)

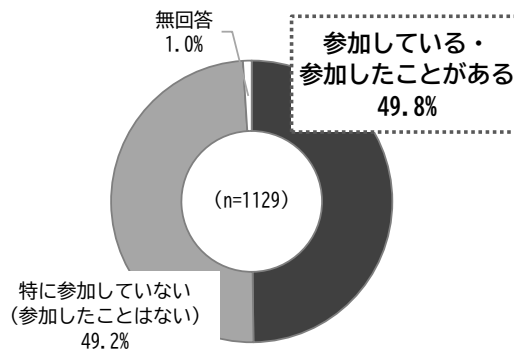


出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

地域活動・コミュニティへの参加の状況、地域活動の活性化に向けた方策等

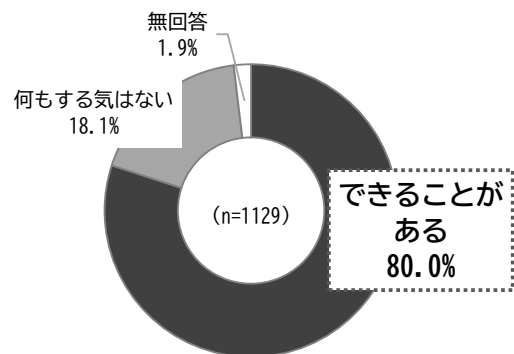
- 現在地域活動やボランティア活動に参加したことがある、あるいは参加したことがあるという割合は区民全体の約半数となっている。(3-1)
- 他方で、普段の生活で近隣の住民同士が自主的に支え合うためにできることがあると回答する割合は8割となっており、このほかきっかけや条件が整えば活動に参加したいと考えている者も少ないわけではない。(3-2～3-4)
- このような活動への参加を促すには、身近な人からの誘いなどが重要と考えられる。(3-5)
- このほか、地域における団体の活動の充実のため、情報発信や人材の確保・活動者の増加のための取組等も必要と考えられる。(3-6,3-7)

整理番号 3-1 現在参加している、または過去に参加したことがある地域活動やボランティア活動の有無(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 3-2 普段の生活で近隣の住民同士が自主的に支え合うために自分ができるとの有無(区民対象調査)

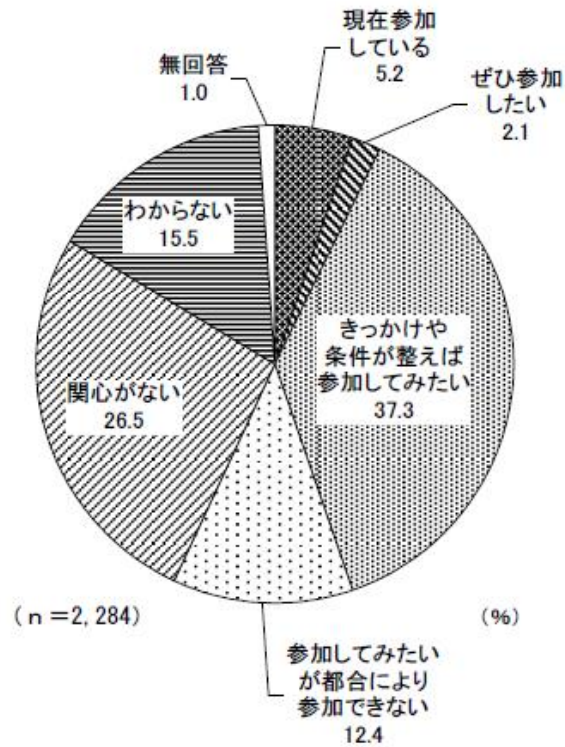


【できるとの詳細、一部抜粋】

近隣の方に積極的に挨拶をする	61.4%
近隣の方に日頃から積極的に声をかける	17.2%
地域活動やボランティア活動へ参加する	13.0%

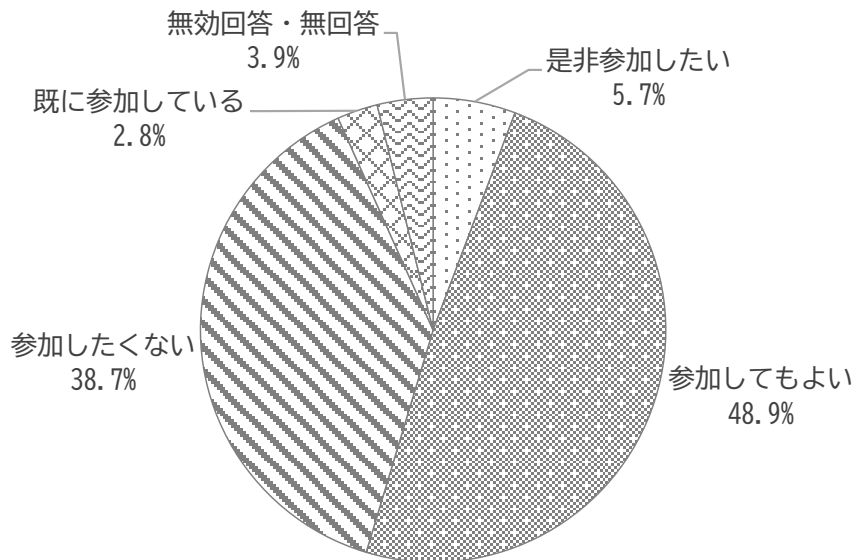
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 3-3 現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思うか



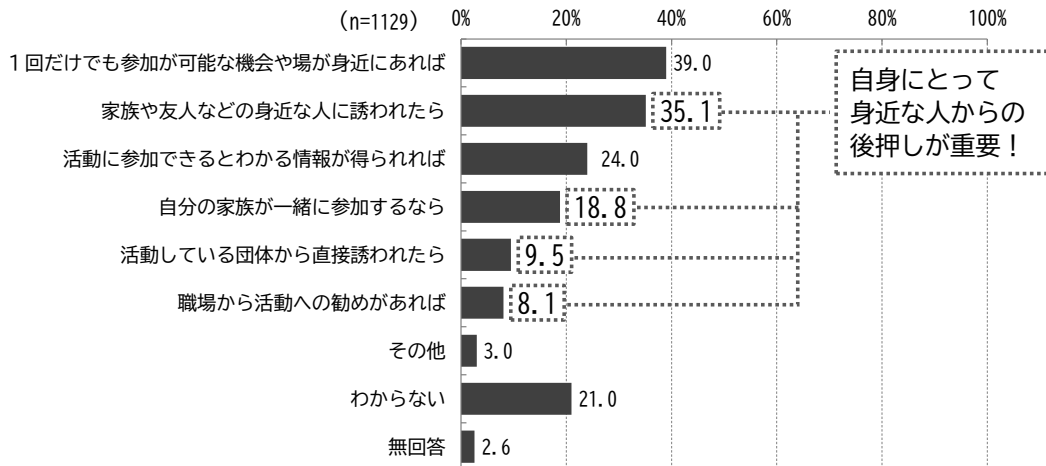
出所:大田区政に関する世論調査

整理番号 3-4 高齢者における、いきいきした地域づくりへの参加意向(活動の参加者として)



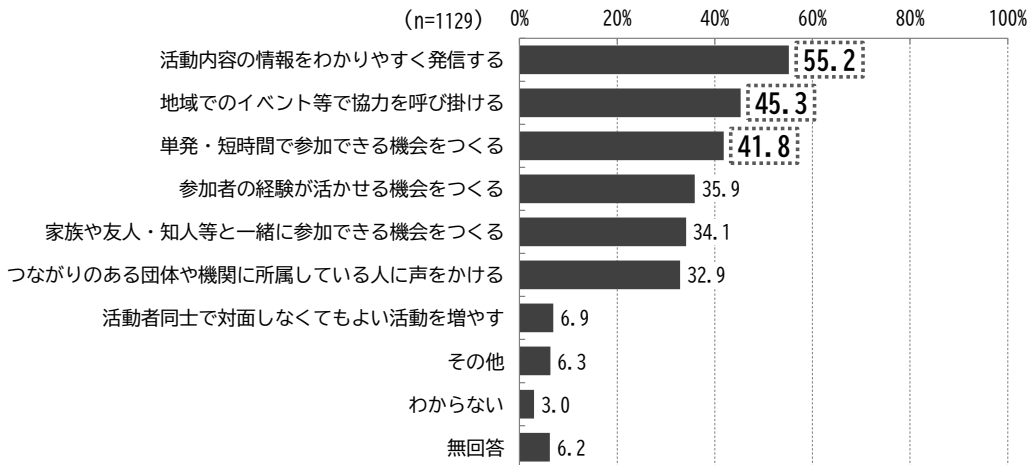
出所:大田区高齢者等実態調査 報告書

整理番号 3-5 地域活動やボランティア活動に参加したいと思うきっかけ(区民対象調査)



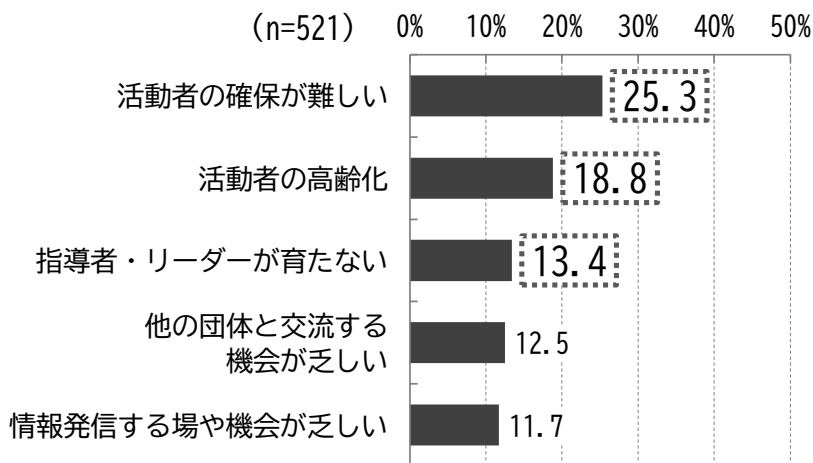
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 3-6 地域団体の活動に参加する人を増やすための工夫(地域団体対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 3-7 地域団体が他団体と連携して解決したいこと(地域団体対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

相談窓口等充実・支援体制等強化の必要性

- 人々が様々な課題を抱えるなかで、サポートを必要とする場面も少なくないと考えられる。(4-1)
- 多くの場合は家族や親族、友人・知人等が相談先になるものと考えられるが、区役所等を相談先として必要とする方もいる。(4-2)
- 各種の相談窓口について、より気軽に様々な相談ができるということが重要と考えられ、また、どの世代にも応じることができる支援体制の充実を図っていくことが重要と考えられる。(4-3,4-4)

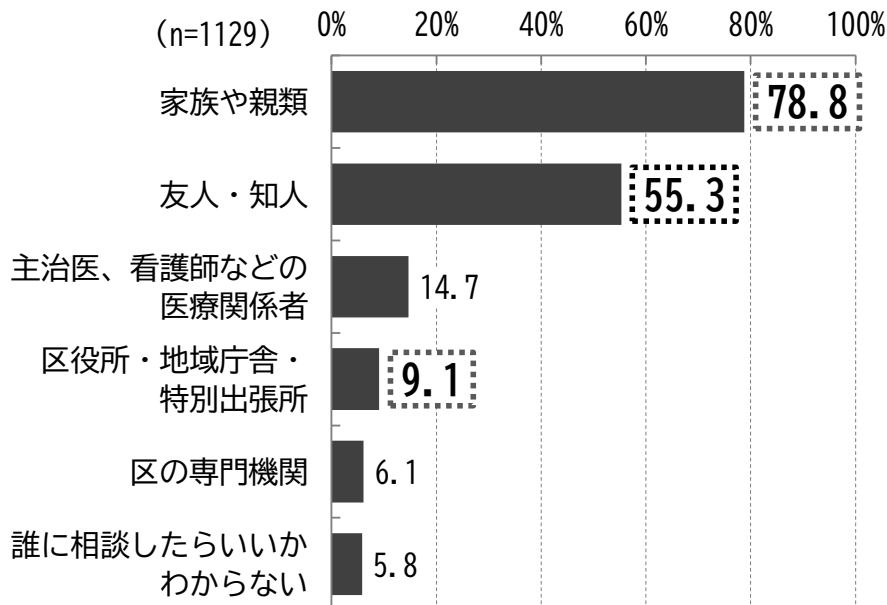
整理番号 4-1 ふだんの生活で、サポートしてもらいたいときはありますか(区民対象調査)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	生活上の悩み等、自分の話を聞いてほしいとき	137	12.1
2	掃除や買い物等の日常の生活の支援をしてほしいとき	85	7.5
3	子どもの世話や見守りが必要なとき	116	10.3
4	家族の介護や見守りが必要なとき	174	15.4
5	自分が病気やけがで看護や人手が必要なとき	324	28.7
6	その他	27	2.4
7	サポートしてもらいたいときはない	470	41.6
	無回答	37	3.3

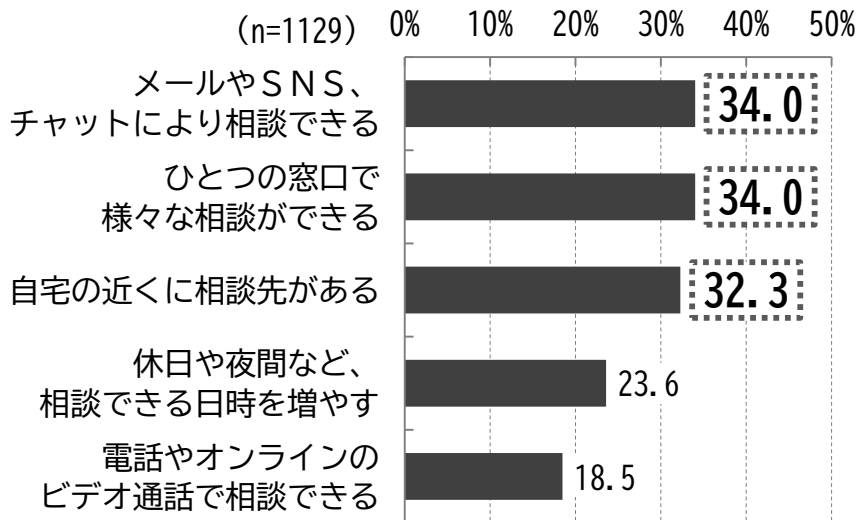
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 4-2 悩みや不安・困りごとの相談先(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 4-3 困りごとを相談しやすくなる対応や工夫(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 4-4 今後福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきこと(区民対象調査)

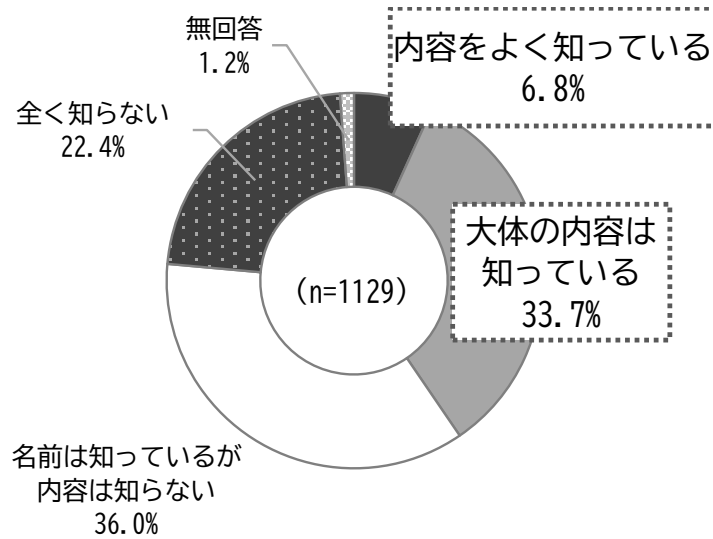
	どの世代にも応じた支援体制の充実	区民が地域に関わるきっかけづくりの充実	福祉の専門的な人材の育成	ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり	複数の課題を抱えた人や世帯に対する相談体制の充実	福祉の関係機関や区内事業所等との区の連携強化	地域で活動する人と人の交流の促進	世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成	地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成	区民や団体が地域で新たに福祉活動を始めるための支援	
全体(n=1192)	50.9	28.9	27.3	27.1	25.1	21.7	18.8	18.2	16.8	15.2	
年代別	18～39歳(n=240)	56.7	19.2	25.0	36.3	22.5	21.7	17.5	24.6	10.8	9.6
	40～64歳(n=536)	49.8	29.5	26.3	28.5	25.7	23.9	17.4	18.1	15.5	13.2
	65～74歳(n=186)	50.5	38.2	31.7	19.4	27.4	20.4	18.3	15.1	20.4	20.4
	75歳以上(n=160)	46.3	30.6	28.7	17.5	24.4	15.6	26.3	12.5	26.3	23.8

出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

成年後見制度について

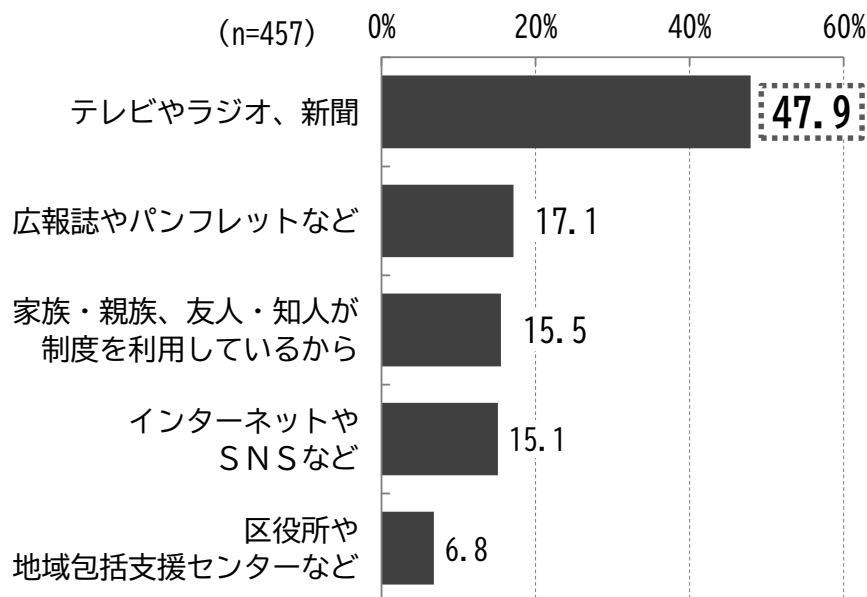
- 成年後見制度について内容を知っているとの回答は約4割で、制度を知った方法は、テレビやラジオ、新聞の割合が高い。(5-1,5-2)
- 成年後見制度の利用意向として、年齢が低い層の方が利用意向は高い傾向にある。(5-3)
- 今後も、内容や利用の手続き等を周知する取組が重要と考えられる。(5-4)
- また、心配事の内容等にも沿うように検討していくことも重要と考えられる。(5-5)

整理番号 5-1 成年後見制度の認知度(区民対象調査)



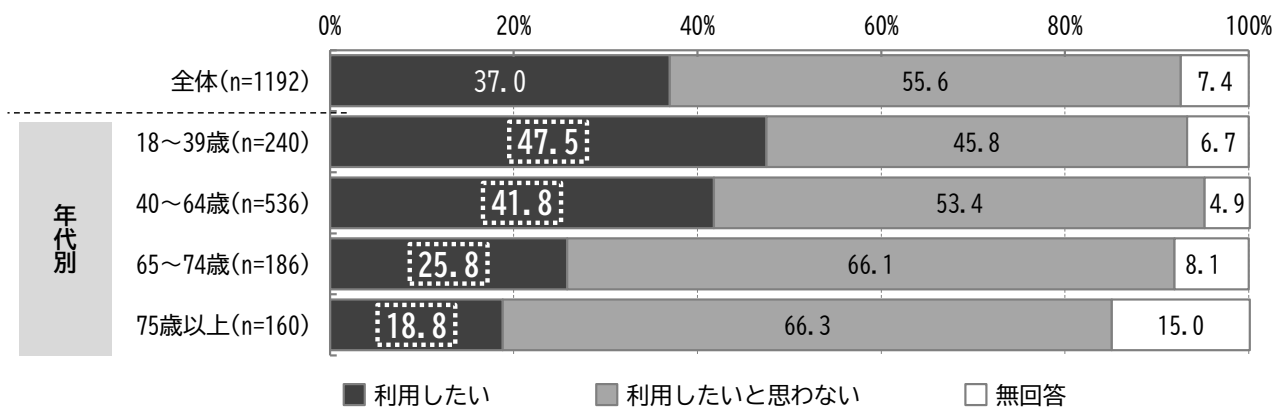
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 5-2 成年後見制度を知った方法(区民対象調査)



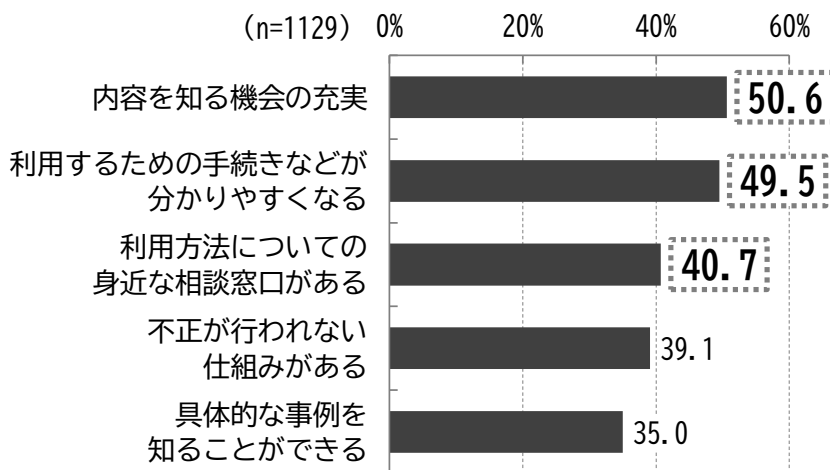
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 5-3 成年後見制度の利用意向(区民対象調査)



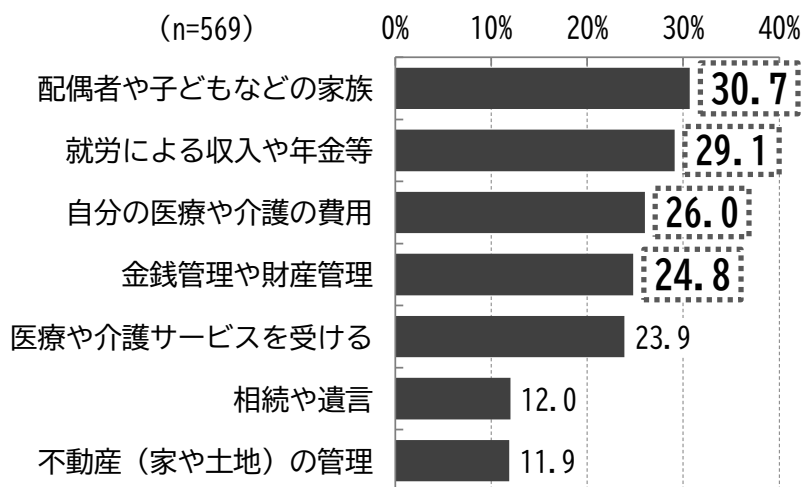
出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 5-4 成年後見制度が利用しやすくなるために必要な取り組み(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書

整理番号 5-5 判断能力低下時に安心して暮らすための心配事(区民対象調査)



出所:大田区地域福祉計画実態調査 報告書